



発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第13回川部会まとめの会を開催しました！

1月14日（金）に第13回川部会まとめの会が新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催されました。まとめの会では、今年度の活動のふりかえり、次年度に向けた目標（活動計画）等について話し合いました。

日時：令和4年1月14日（金）14:00～16:00  
会議場所：豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室  
参加者：21名（内オンライン参加5名） ※事務局を含む



### ◆主な会議内容

#### 1. 今年度のふりかえりについて

今年度は3回のWGを実施し、設定した3つの課題について以下の活動を行いました。

##### ◆本川モデル

- ・国土交通省豊橋河川事務所より置土実験について説明いただき、目標と実験の進捗状況について共有しました。
- ・名城大学溝口教授より、土砂の流れにより形成される河床形態や砂州について講義していただきました。
- ・国土交通省豊橋河川事務所より、鵜の首地区水位低下対策事業の進捗と事業効果について、現地にて情報共有を行いました。また、「矢作川流域治水プロジェクト」に関する情報共有を行いました。
- ・次年度実施が計画されているバスツアーについて、川部会が担当する阿摺ダム、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川の内容について再確認しました。

##### ◆支川モデル

- ・境川水系の初音川に整備されたピオトープを視察し、整備の成果や課題について情報共有を行いました。

##### ◆地先の問題

- ・ごみ問題に関する情報共有として、市民部会主催のマイクロプラスチックに関する公開講座に参加しました。
- ・流域圏懇談会設立20年を見据えた「部会連携調整」の設立について情報共有を行いました。
- ・人間環境大学との連携、生態系ネットワークとの連携への取り組みについて情報共有を行いました。

#### 2. 次年度の活動目標・活動計画の設定

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。話し合いで決まった主な目標や計画、提案を以下に記します。

- ・海部会・川部会による合同部会開催の提案が海部会よりありました。上下流問題（土砂運搬）に関する合同部会として、鵜の首水位低下対策事業と干潟造成について協議する会議の実施を具体的に計画する。
- ・中部電力のデータなども活用し、矢作川本川の土砂移動について充実した議論を実施する。
- ・生態系ネットワーク協議会や人間環境大学など外部との連携を積極的に図っていく。
- ・来年度の公開講座で川部会が関われるテーマとして、防災をテーマとした講座の実施を検討する。

#### 3. その他

11月27日に実施されたネオニコチノイド系農薬をテーマにした公開講座の開催結果について報告がありました。川部会からは15名が参加しました。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●今年度のふりかえり・次年度に向けての目標(活動計画)設定について

#### ■上下流問題(本川モデル・支川モデル)

- ・越戸ダム下流の置土実験をやる時に、どういふ土砂が通過しているかを調査できないか。現時点での通過の材料と溜まっている材料について整理する機会があるとよい。(鷲見)
- ・中部電力のダム堤体近くの土砂の堆積調査の結果から、どういふものが下流に流れだしているのかの推定ができるかと思う。それと置土実験の関係を調査するなど。(内田)
- ▶ 将来的な河床や粒径など、一次元シミュレーション上でのデータはだしている。また、中部電力の調査データなども使いながら検証する必要があると考えている。(事務局)
- ▶ 調査するほうが良いと思うことが多数ある。一次元のシミュレーションでは土砂の流れは表現できない。測らないとわからないことがたくさんあるという認識を持つ方がよいと思う。(溝口)
- ・ダムの土砂と海ということで、海部会でいろいろ考えていると聞いている。合同部会や土砂の調査をどうするかなど、来年度の事業計画として全体会議で提案するとよい。(近藤)
- ▶ 合同部会で提案されている鵜の首などちょうどよいタイミングだと思う。(鷲見)
- ▶ 置土実験の成果が出てきていると思うが、次年度では、中部電力の協力もいただいて、矢作川の土砂移動に関して充実した議論を行いたい。(内田)
- ▶ 愛知県では、河道掘削や河道内樹木の伐採など昨年度から本格的に事業をやりはじめた。総合土砂管理の話題等で情報提供していきたい。(戸田)
- ▶ 土砂管理については、愛知県、中部電力の情報提供に基づいてしっかり議論していく。(内田)
- ▶ 本来は川から土砂が出てきて、それで沿岸の浜が形成されるが、現状はどうなのかを語る方の話を聞きたい。そこが川と海の接点になっているので。(鷲見・溝口)
- ▶ 河口部の土砂粒径がどう変わってきているのかをたどりたい。矢作川自然再生事業で地形変化は調べられているが、粒径ベースで土砂がどのように変わってきているのかという点。(鷲見)
- ▶ 海部会からの合同部会の提案を受けたいと思う。来年度、具体的に計画していく(内田)
- ・砂が細かすぎるとアサリの幼生が落ち、それが減少要因になっている。矢作川から運搬した砂は粒が細かくなり、不ぞろいなのでアサリが隙間に入り、生息しやすい。若干だがアサリの漁獲量もどりつつある。(岡村)
- ・中流域の砂を三河湾に持ってくることに、浜辺の方々にとって違和感はないか。(光岡)
- ▶ 地元の漁師さんの要望に基づいて計画しているので、違和感はないと思う。(岡村)
- ▶ 砂を中流域から運んで持っていくことは不自然なこと。砂が海に流れる環境が整っていることが望ましい。(光岡)
- ▶ 人工的に土砂を持ってきて干潟を造成した時に、アサリも含めた底生生物の生息など干潟が持っている多様性の回復についても考えていく必要がある。(内田)
- ▶ 干潟が再生されると底生生物がどれくらい回復し、水質が浄化されるかという研究はやっている。(岡村)
- ・河床を掘削した後、比較的早い時期に河床の地形変化や土砂の溜まりなどをモニタリングするとよい。(鷲見)
- ▶ 愛知県では、河床掘削したところのモニタリングは予定していないが、懸案事項であると認識している。(戸田)

#### ■地先の問題

- ・生態系ネットワーク協議会との連携について動き始めている。また、人間環境大学といっしょに活動を始めようという話を進めている。川部会のテーマでは、土砂の話などで興味をもってもらえるかもしれない。(近藤)
- ・流域圏懇談会から生態系ネットワーク協議会に出ていくような相互のやりとりが必要かと思う。(近藤)
- ▶ 流域圏懇談会として、生態系ネットワーク協議会との連携を積極的に図っていくことを基本方針とする。(内田)
- ▶ 西三河生態系ネットワーク協議会はおそらく里山をベースとして活動している。流域圏懇談会としては、ある意味全体をカバーしているので、話題ごとに情報提供するというはありうると思う。(鷲見)
- ▶ 具体的に目標を一つにしないと連携は難しい。目標を明確にすることを念頭にさぐる必要がある。(近藤)
- ・来年度の活動として、流域の方々から川に親しむというのも大きな課題。支川から本川にどんな影響を及ぼしているのかという課題もある。ポイント、ポイントで望ましい状態を考えていく必要がある。(光岡)

#### ■その他

- ・来年度公開講座で情報発信する提案が出ている。川部会からも検討していただければと考えている。(事務局)
- ▶ 来年度が47災害から50年という節目となることから、来年度の公開講座のテーマとして取り上げられることを市民部会で検討している。川部会でも関わられるテーマと思う。(近藤)

## 今後の予定

■第11回全体会議 日時：令和4年2月21日(月)13:00~16:00 Web(オンライン)会議

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。